

?と!が生まれる 自然環境

園庭作りに参加することで、園に対する保護者の意識はどのように変わってきたのでしょうか。その取り組みをご紹介します。

監修＝大澤 力(東京家政大学教授)

自然を取り込む園庭作り vol.4

保護者を巻き込んで創る

執筆＝内野彰裕(東京都・東京ゆりかご幼稚園園長)

4月号で紹介した「小川作り」は、当園にとっての一大プロジェクトでした。日ごろの力仕事は、園長とバスの先生が担当していますが、規模が大きいことと、また、ぜひ保護者の方にも園庭作りにかかわってほしいという思いもあり、主に父親たちに協力を呼びかけました。

1回目の呼びかけではあまり反応がなかったのですが、「困っています！手伝ってください！」という、困窮感あふれる2回目のお知らせを出すと、「仕方ないな……」と、15人の保護者が腰を上げてくれました。

土を盛り、材木を切り……汗をたくさん流しての作業は、半日の予定を超えて丸1日かかりましたが、みんな満足そうに帰っていかれました(夜には再集合して労をねぎらいました！)。

その後、行事で園にきては小川の状態をチェックしていく父親たちの姿が。「このデッキ、傷んできたから代えたほうがいいな、工具ある？」などという言葉は、以前にはありえなかったでしょう。園からの協力の呼びかけにすぐに集まってくれるようになったり、母親たちから自主的に「わたしたちも何かしたい！」と環境の整備を申し出てくれたりと、確実に保護者と園の距離が近づいてきたと実感しています。保護者を巻き込んだ園庭作りは、今も、定期的な園庭整備や家庭生ゴミ(畑の肥料)の提供など、さまざまな形で継続されています。



小川作りに取り組む父親たち。



「わたしたちも環境整備のお手伝いを!」という母親たちによる花植えの活動。途中、お茶でひと息。



花壇や畑に、家庭から持ち寄った野菜くずを肥料としてまく。

※このページでは、「いつでも自然とふれあえる園庭」を目指して、保護者と子どもと保育者で園庭改造に乗り出した東京ゆりかご幼稚園の実践を、1年間で紹介します。来月は「自然をとらえる目をもつ保育者に」です。